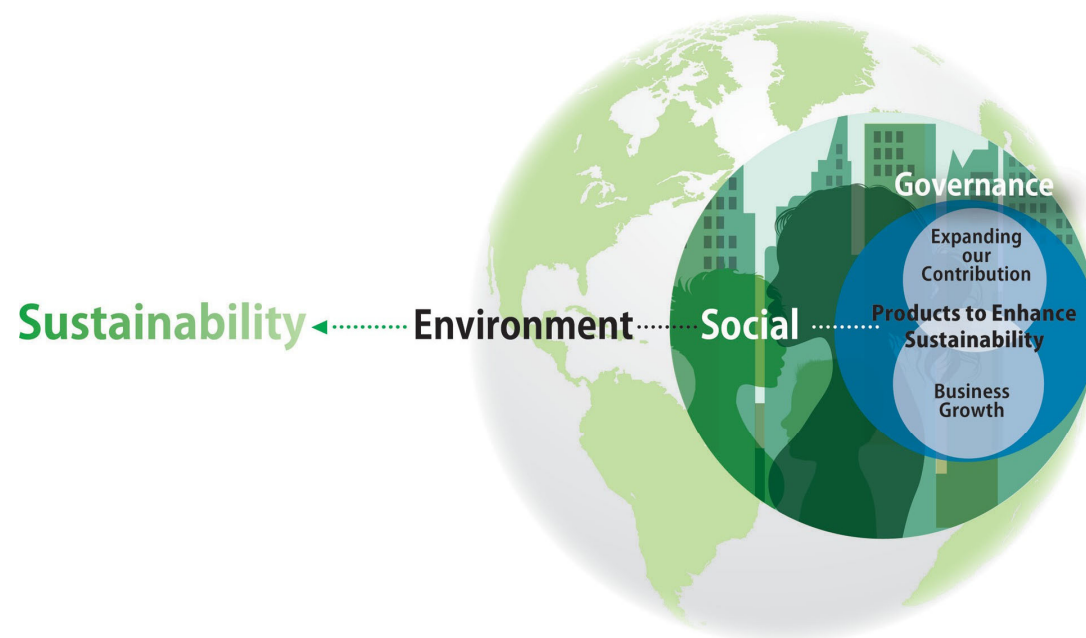
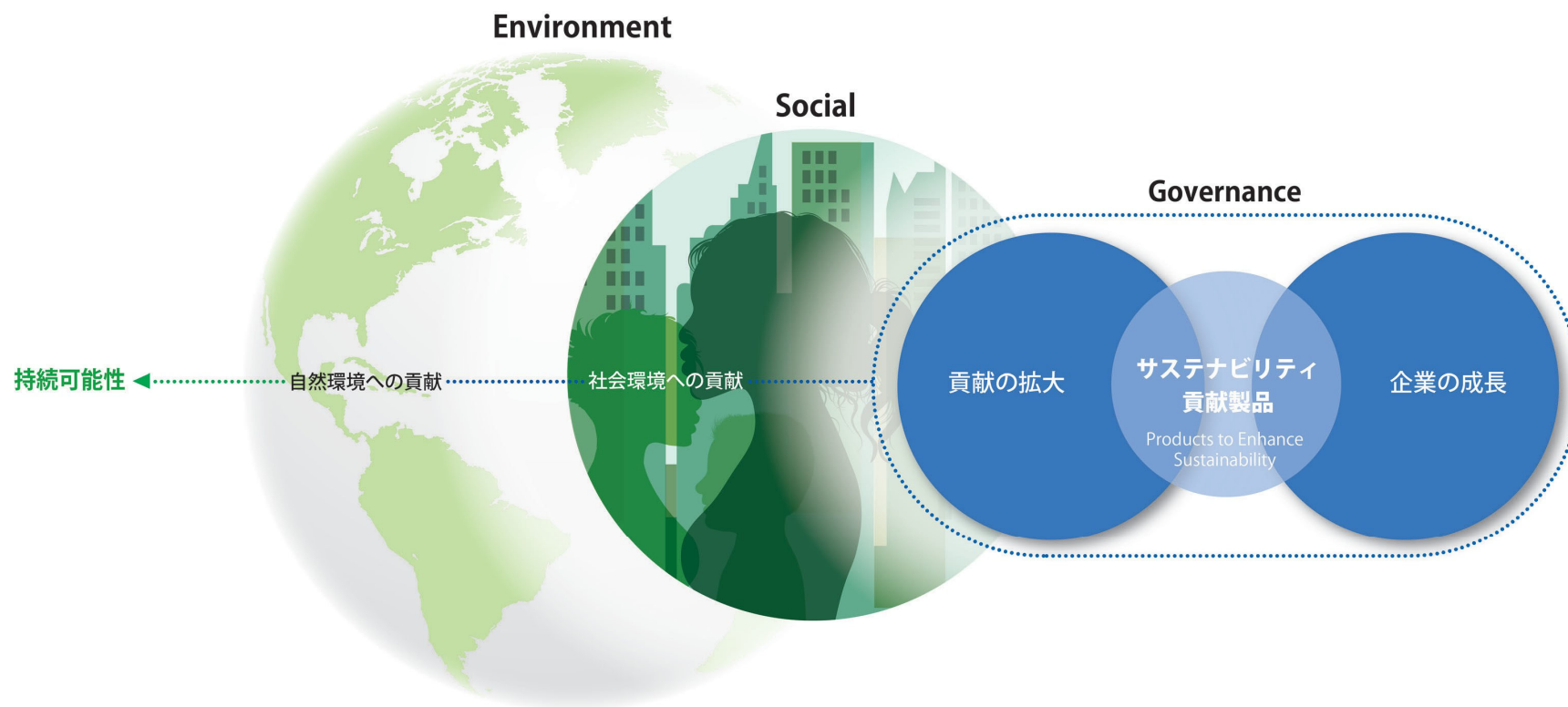




*Products
to Enhance Sustainability*

サステナビリティ貢献製品は、ESG 経営を推進するSEKISUI 独自の制度です。

SEKISUIのサステナビリティ貢献製品制度は、
自然環境および社会環境の課題解決への貢献度が高い製品の創出と市場拡大を加速し、
サステナブルな社会の実現と当社グループの成長を目指しています。



中期経営計画「Drive 2.0」(2023-2025年度)

サステナビリティ貢献製品が、利益創出力、社会課題解決貢献力、持続経営力をけん引。

KPI: サステナビリティ貢献製品の売上高 2025年度目標 1兆円超

SEKISUI のすべての事業に息づくサステナビリティの遺伝子



環境と社会に対して、SEKISUI ならではの貢献を果たすこと。それが、私たちの事業を育ててきた原動力でした。

クリーンな給排水インフラに貢献

旧来、日本の水道で多く使われてきた金属管（鉄管）は、経年による「腐食」が最大の課題でした。



塩化ビニル管「エスロンパイプ」
内面が滑らかで腐食に強く、軽便で施工性にも優れた塩化ビニルパイプの量産を日本で初めて開始。以来、日本の給排水を半世紀以上支え続けています。

都市の衛生環境改善に貢献

1950年代、急速な都市化によって増大したゴミ処理問題の解決が大きな社会課題となっていました。



プラスチック製分別回収容器「ポリバケ」
製品販売とともに「街を清潔にする運動」を開始し、ゴミ問題に関する消費者への啓発運動を展開。社会に貢献する企業としてのイメージを高めました。

医療現場の安全性に貢献

ガラス製の採血管は、検査中の落下などで破損し、血液の飛散によって感染するリスクがありました。



プラスチック製真空採血管「インセパック」
ガラスと同等の採血寿命・血液凝固性・血清分離性を実現した世界初の割れないプラスチック製真空採血管を開発。医療現場に大きな安心をもたらしました。

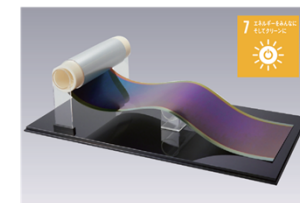
太陽光発電の有効利用に貢献

地球温暖化の進展により温室効果ガスが大量排出。家庭からのCO₂排出量の削減が課題となっていました。



太陽光発電システム搭載住宅
1997年に太陽光発電システムを標準装備したシリーズを発売するなど、「ゼロエネルギーハウス」のトレンドを大きく推進しています。

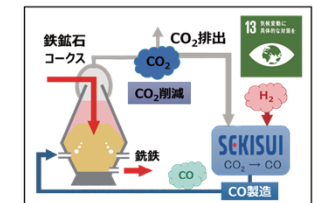
平地面積の少ない日本では、太陽光発電の設備を設置するための物理的な適地が不足しています。



フィルム型ペロブスカイト太陽電池
従来のシリコン系太陽電池にはない、軽便で柔軟という特性により、これまで設置が難しかった場所への太陽電池の導入を可能にします。

CO₂の固定化に貢献

脱炭素社会に向けて、産業界から排出されるCO₂を削減する様々な技術が求められています。



CCU技術（CO₂回収・有効利用）
CO₂をCOに変換して有効活用する技術により、化石資源への依存度を低減し、産業界の脱炭素化に貢献することが期待されています。

1950年 1960年 1970年 2000年 2050年

都市成長に伴って、インフラの整備が求められるようになりました

技術革新が進み、より便利な暮らしが求められるようになりました

持続可能な社会の構築が求められるようになりました

自動車の安全性に貢献

1960年代以降、モータリゼーションによる自動車台数の急増で、「交通戦争」が社会課題となりました。



ガラスの飛散を防ぐ「中間膜」
1960年、合わせガラス用中間膜「エスレックフィルム」を製造開始。割れても飛び散らないガラスが普及し、世界で大きなシェアを獲得しました。

住生活の向上に貢献

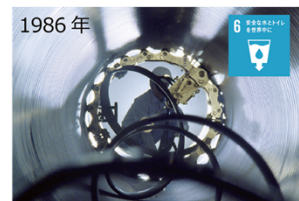
1970年代に入り、高度経済成長期が終焉を迎える中、日本では良質安価な住宅の供給が急がれていました。



高度工業化住宅「セキスイハイム」
工場生産率 80%を超えるユニット工法によって実現した、高品質・高性能・高コストパフォーマンスの住宅は、日本の住宅問題の解決に大きく貢献しました。

水インフラの更新に貢献

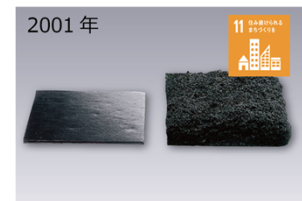
高度成長期の都市化に伴って埋設された下水管の老朽化による問題が顕在化していました。



管路更生工法「SPR工法」
帯状の樹脂材料で下水管の中に更生管を作り、古い管と一体化させるという画期的な工法で、下水を流したまま、道路を掘り返さずに施工することができます。

火事の際の延焼防止に貢献

人手不足による不適格施工への懸念等から、建物火災の延焼対策にも新たな手法が求められていました。



断熱遮熱耐火材「ファイブロック」
火災が発生すると同時に5〜40倍に膨張し、断熱層を形成して、配管などの炎の通り道をシャットダウン。新しい乾式工法の提案により、より確実な施工ができるようになりました。

安心で安全なまちづくりに貢献

安全で安心な暮らしのためには、住まいだけでなく、街全体が確かな技術に支えられている必要があります。



まちづくり
安全で暮らしやすい、誰もが望む理想のまちをめざし、積水化学グループの総力を結集して、まちづくりを推進しています。

可燃性ゴミの資源化に貢献

循環型社会に向けて、限りある資源の有効活用や使用後のプラスチックの処理などが課題になっています。



バイオファイナリー
微生物触媒を活用して可燃性ゴミをエタノールに変換する技術を確立しました。新しいリサイクル技術のプラントを社会実装していきます。

2006 年に「環境貢献製品」としてスタートした SEKISUI の「サステナビリティ貢献製品」認定制度は、年々進化を続けてきました。

SEKISUIが、自然環境へのよりいっそうの貢献をめざして「環境貢献製品」制度をスタートさせたのが2006年。

以後、その内容を年々進化させ、よりレベルの高いESG経営を実現する「サステナビリティ貢献製品」制度として、グループ全体で推進しています。

従来の取り組み

新たに進化させたこと

環境貢献製品制度

2006 年以降

SEKISUI

生産者として
貢献できること

① 2つの貢献主体

+ お客様として
貢献できること

Customer



製品のライフサイクルを通じた貢献

社内基準をもとに、自然環境課題解決への貢献度が高い製品の創出と拡大を目指した認定制度をスタートさせました。

2010 年以降

SEKISUI
Certification Review Board

社内委員による評価

② 2つの視点

+ 社外有識者との対話

External
Advisory Board



有識者も交えた客観的な視点

基準や考え方などの妥当性に関して社外有識者よりご意見をいただき、基準の高さや透明性を担保しています。

2017 年以降

For the earth

自然環境への貢献

③ 2つの貢献対象

+ 社会環境への貢献

For the society



環境だけでなく社会への貢献も対象

自然環境だけでなく、社会環境への貢献も対象とし、SDGs(持続可能な開発目標)と同じところを目指していることを確認しました。

サステナビリティ貢献製品制度

2020 年以降

For solving
social issues

環境・社会課題の
解決のために

④ 2つの条件

+ SEKISUIや取引先の
持続的成長のために

For ensuring
continuous growth



あらゆるステークホルダーのために

課題解決への貢献を永続的なものにするため、自社を取り巻く利害関係者の持続性にも配慮しました。

2023 年以降

Evaluation
from single perspectives

ひとつの視点で
貢献部分だけを評価

⑤ 2つの評価特性

+ 多様な視点で
悪影響の有無も評価

Evaluation
from multi
perspectives



複数の環境課題に配慮

複数の環境課題に対してネガティブな影響を及ぼしていないか、そのためにどのような策を検討しているかを確認しています。

環境課題解決への貢献度が高い製品を社内基準で認定登録し、その売上高の向上を社会にコミットしています。

従来、企業の環境への配慮は、自社の企業活動が自然に与える負荷を低減することに注力されていました。

SEKISUIが2006年から推進してきた「環境貢献製品」制度では、自社だけでなく、製品をお使いいただくお客様によっても

自然環境へよりよい貢献がもたらされる製品の創出、拡大を推進。現在は「サステナビリティ貢献製品」制度としていっそうの進化を遂げています。

2006 年以降

SEKISUI

生産者として
貢献できること

① 2つの貢献主体

+ お客様として
貢献できること

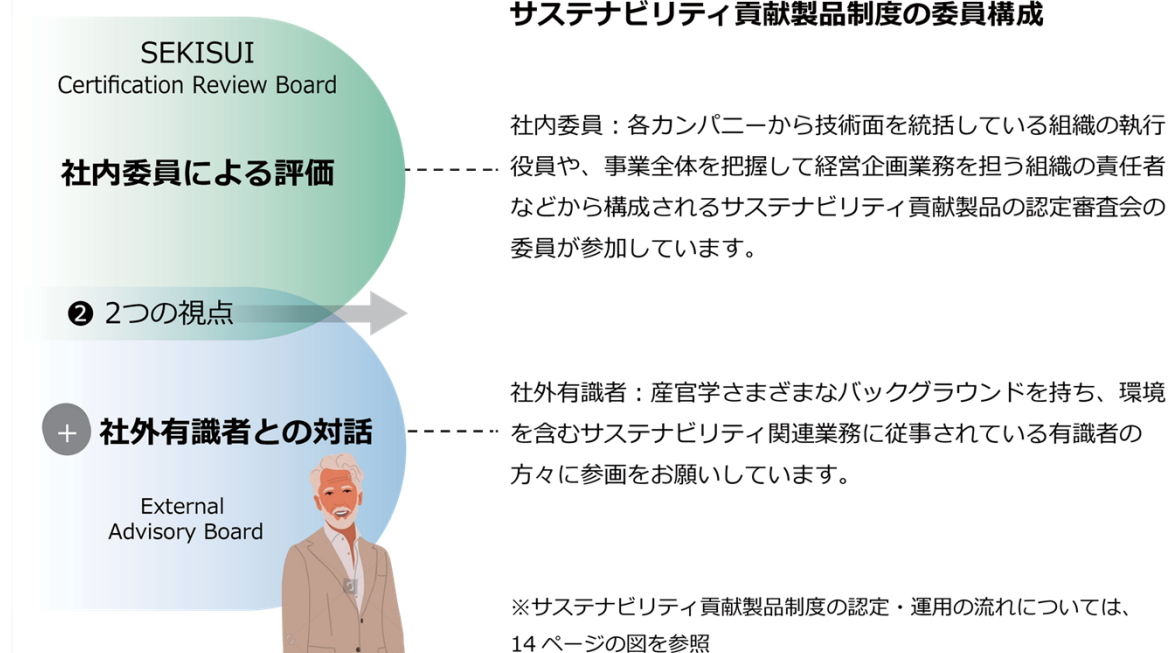
Customer



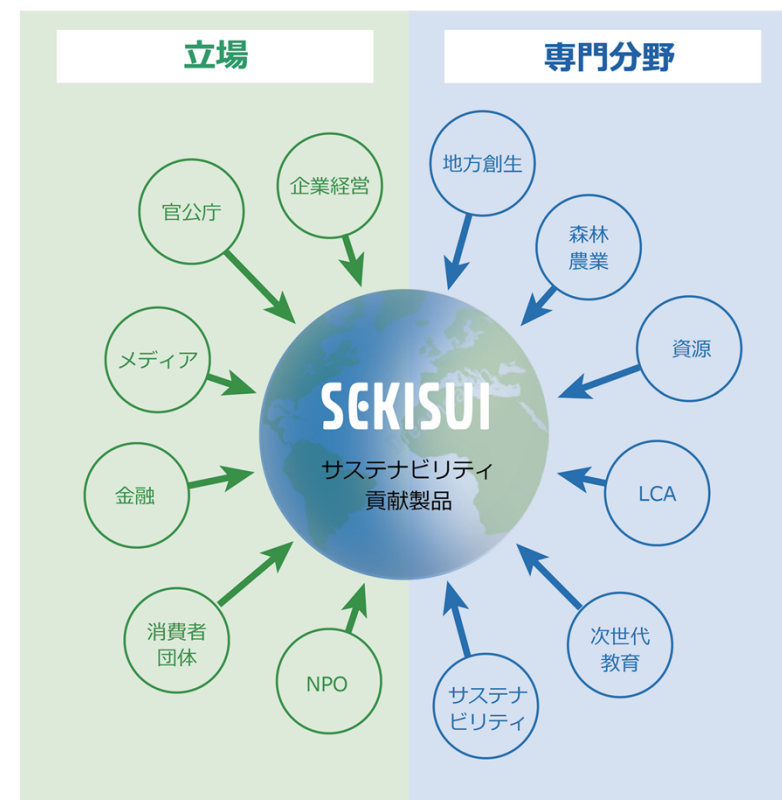
社内委員による審査だけでなく、社外有識者をアドバイザーに迎えた認定制度にレベルアップしています。

SEKISUIの「サステナビリティ貢献製品」制度は2010年から、各分野における専門知識や事業経験を持った社外の有識者から基準や考え方などの妥当性に関するご意見やアドバイスをいただき、基準の高さや透明性を担保しています。

2010年以降



社外有識者のお立場と専門分野



自然環境だけでなく、社会環境における課題の解決にも寄与する制度へと進化しています。

持続可能な社会を実現するため、自然環境だけでなく、健康の増進、災害リスクの緩和、暮らしの快適性など、より良い社会環境をもたらすための貢献にも考慮した製品の創出と普及を促進。

国連が提唱しているSDGs（持続可能な開発目標）と歩みをそろえて、社会の持続可能性に貢献する制度に進化させました。

2020 年以降

For solving
social issues

環境・社会課題の
解決のために

④ 2つの条件

+ SEKISUIや取引先の
持続的成長のために

For ensuring
continuous growth



自然環境への貢献

GHG 排出量削減

- ・省エネ性能の向上
- ・未利用エネルギーの利用
- ・フロンガスの代替
- ・製品のライフサイクル中での削減
- ・非化石資源由来プラ（バイオマスプラ）の使用
- ・創エネ・蓄エネ機能
- ・都市空間のエネルギーマネジメント
- ・お客様の製造工程における削減

廃棄物削減

- ・耐久性向上（長寿命化など）
- ・低量廃棄物工法の採用
- ・端材、不良、不要物の削減

原材料削減

- ・資源の節約
- ・再生資源の利用（他製品の廃材）
- ・水平リサイクル
- ・リサイクルシステムの構築

節水・水循環

- ・上水利用量の削減
- ・用水利用量の削減
- ・漏水の削減
- ・雨水浸透による水循環

汚染の防止

- ・浄化による汚染防止
- ・低VOC化

生物多様性の保全

- ・森林認証材の使用
- ・間伐材の利用
- ・生分解性原料の利用
- ・表土流出の防止
- ・砂漠化の防止
- ・湿地の保全
- ・緑化の推進
- ・海洋・河川汚染の防止
- ・種・遺伝子の保全

防災・減災

- ・災害時に耐性があるもの

中間素材・資材類

- ・原材料・部材・資材として、環境負荷低減に貢献



社会環境への貢献（2017年～）

健康寿命の延長

- ・病気蔓延の予防（病気の発見・予防）
- ・高齢者、介護対象者の自立支援
- ・障がい者の自立支援
- ・介護する人間の負担軽減
- ・快適・衛生性の向上
- ・健康習慣の啓発
- ・災害リスクの緩和
- ・サプライチェーンを含む労働環境改善

社会インフラの強靱化

- ・インフラの開発、提供
- ・災害および緊急時の対応強化
- ・災害および緊急時の耐性強化
- ・低所得国対応

暮らしの安全性と災害耐性強化

- ・居住、生活の持続可能性を向上
- ・生活の安全性向上
- ・居住、生活の快適性向上
- ・地域活性化



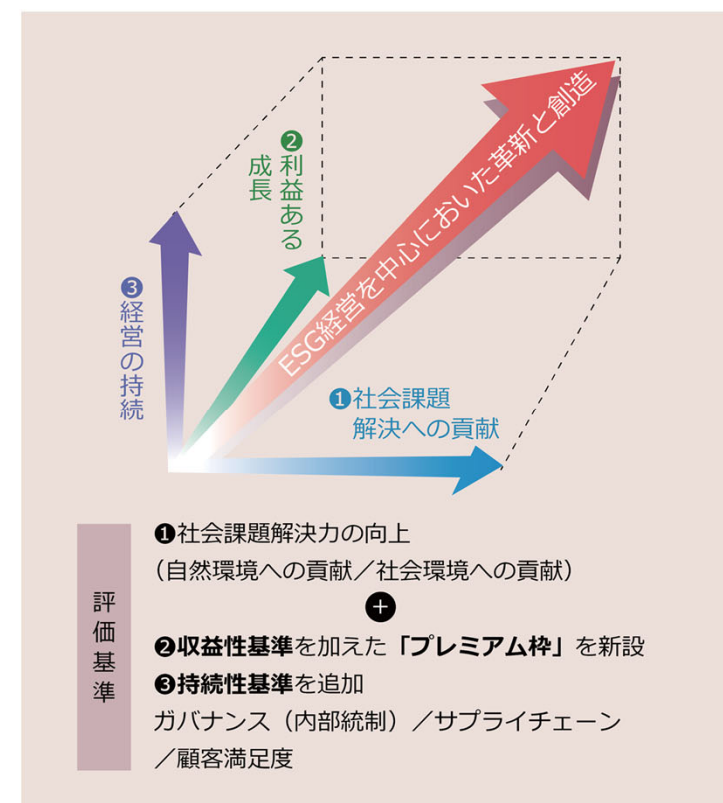
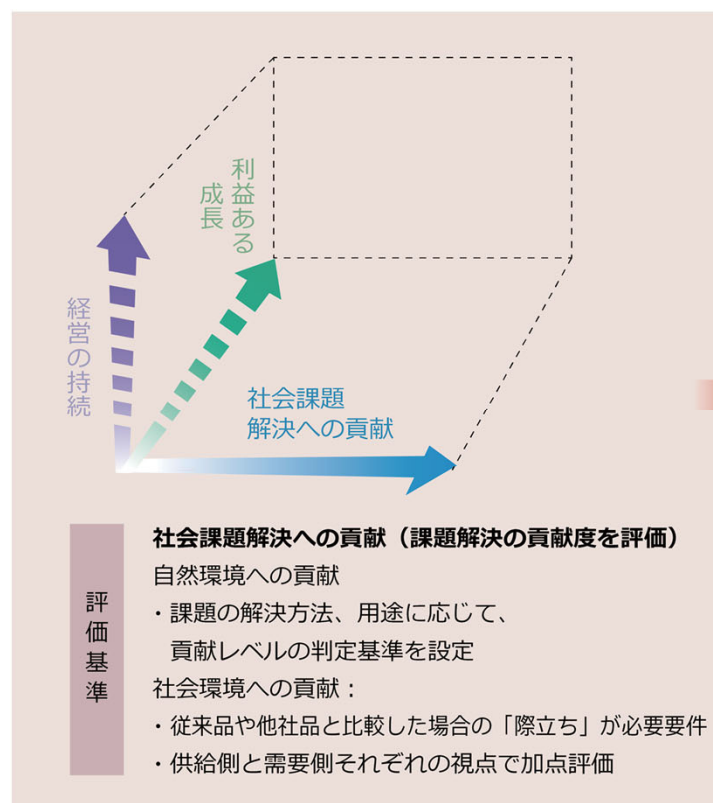
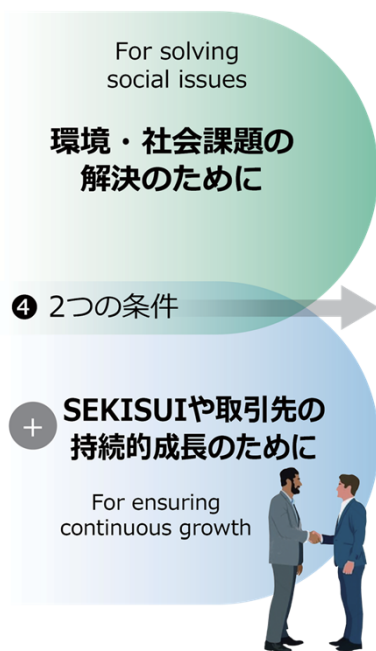
社会課題を解決するとともに、自らの企業成長を実現する ESG 経営へと進化しています。

サステナブルな社会の実現と同時に企業としての持続的な成長を加速するため、従来の製品評価プロセスに加えて、以下の運用を開始。名称を「サステナビリティ貢献製品」に改めました。

・持続性評価：サプライチェーンも含めたガバナンス（内部統制）、顧客満足、開発プロセスにおける社会的責任およびリスクとなる事項の確認・評価（2022年度に評価完了）。

・プレミアム枠の設定：環境を含む社会課題解決への貢献度が高く、利益をけん引している製品を戦略的に伸長させるために設定。

2020 年以降



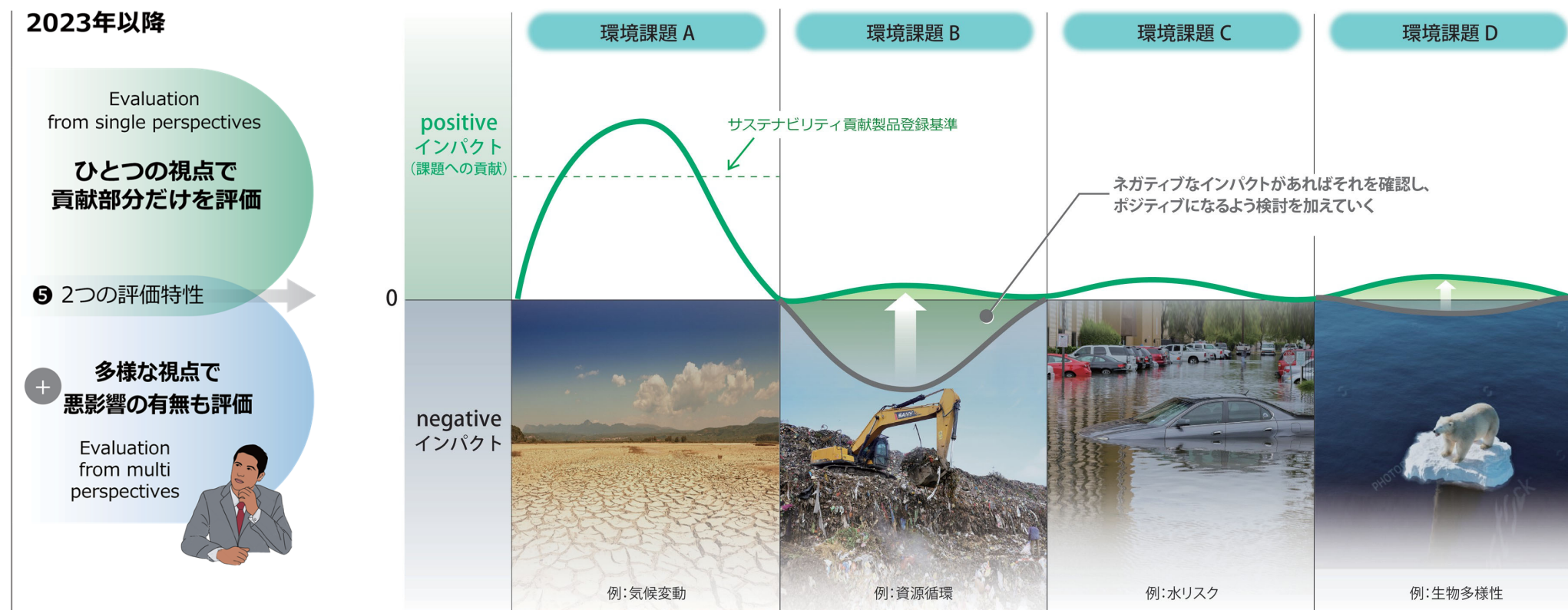
製品が複数の環境課題に対してネガティブな影響を及ぼしていないか、どのような策を検討しているかを確認しています。

サステナビリティ貢献製品に認定する際に、複数の環境課題に対してポジティブな影響と同時にネガティブな影響も与えるトレードオフ（二律背反）になっていないかを確認し、それを改善、さらには、すべての影響がシナジー（相乗効果）をもたらす状態をめざすことによって、SEKISUIの課題解決をいっそう質の高いものにしています。

灰色：登録基準以外の環境課題におけるネガティブなインパクト

緑色：ネガティブなインパクトを低減するため、多様な視点で評価、改善を行ったサステナビリティ貢献製品

※以下は、取り組みのイメージ概念図です。



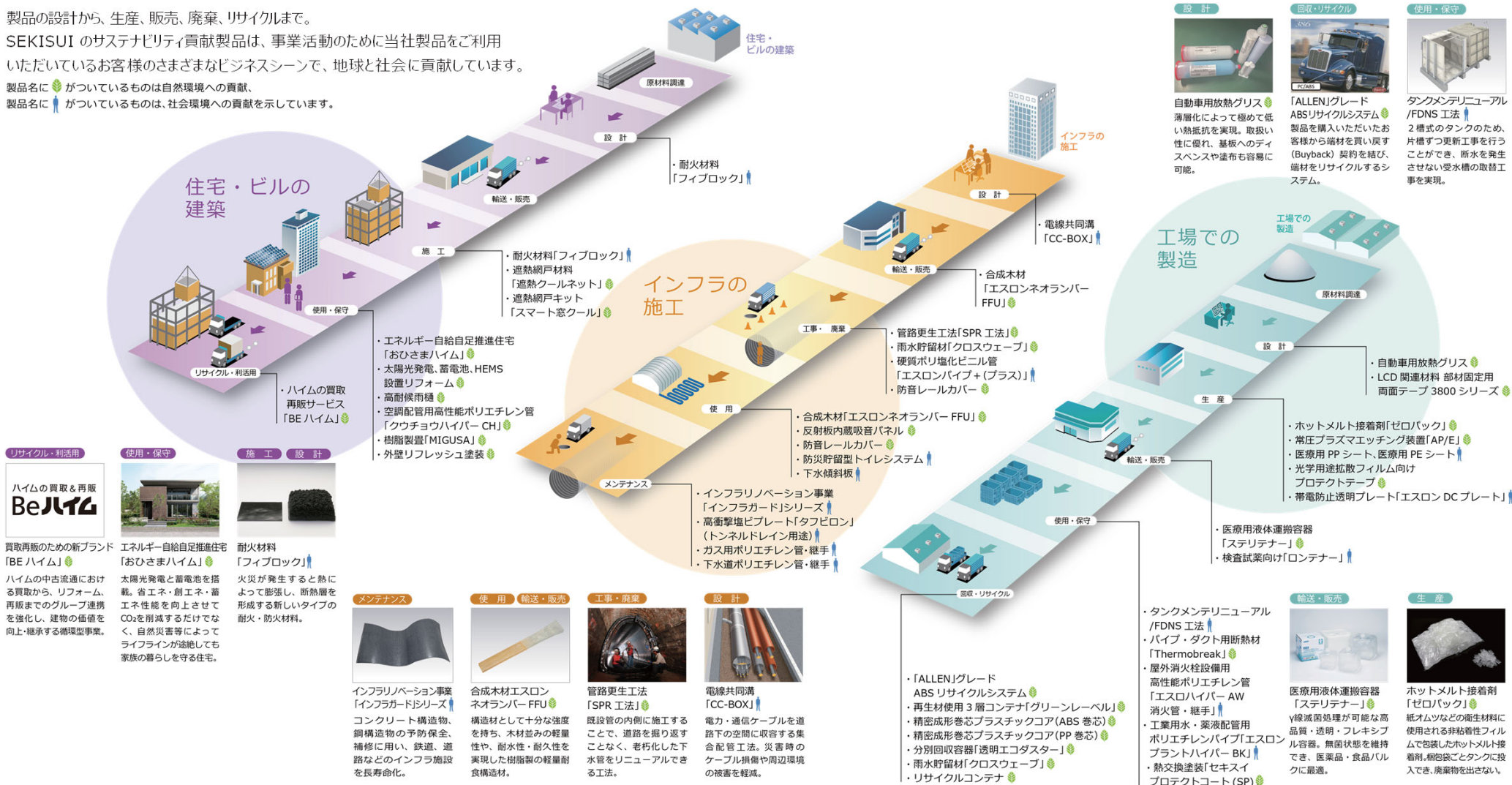
お客様の事業活動の中で生まれる環境と社会への貢献

製品的设计から、生産、販売、廃棄、リサイクルまで。

SEKISUI のサステナビリティ貢献製品は、事業活動のために当社製品をご利用
いただいているお客様のさまざまなビジネスシーンで、地球と社会に貢献しています。

製品名に ♻️ が付いているものは自然環境への貢献、

製品名に ♻️ が付いているものは、社会環境への貢献を示しています。



人々の毎日の暮らしの中で生まれる環境と社会への貢献

SEKISUI

街で、工場で、インフラで、交通機関で。SEKISUI のサステナビリティ貢献製品は、人々が暮らしの中で目にする様々なシーンで、あるいは、それを支える見えない部分でも、地球と社会に貢献しています。

製品名に  が付いているものは、自然環境への貢献、
製品名に  が付いているものは、社会環境への貢献を示しています。

医療・介護分野

検査事業



糖尿病・感染症等の各種臨床検査薬、樹脂製真空採血管、分析装置などの事業を展開。病気を早期発見し、重症化や感染の拡大防止によって、健康寿命の延長に貢献。

- ・介護・自立支援設備「wells」
- ・減災型高齢者住宅「ハーベストメント」
- ・血液凝固自動分析装置コアプレスタシリーズ「CP3000」
- ・医療用液体運搬容器「ステリテナー」
- ・介護施設用見守り機器「ANSIEL」

建築分野

フラクタル構造の日よけ材「エアリーシート」

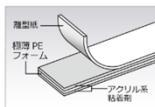


多数の葉で構成される樹木の構造にならった立体形状のユニットを組み合わせてつくる新発想の日よけ。温度上昇が少なく、木陰のような居ごちを実現。

- ・雨水貯留材「クロスウェーブ」

電子機器関連

LCD 関連材料 機能フォームテープ 5200 シリーズ



高い衝撃吸収性を持つ、薄型発泡体両面テープ。携帯電話の液晶ディスプレイに採用され、落下による破損を防ぎ、防水性の向上に貢献。

- ・LCD 関連材料 ギャップ制御用微粒子「マイクロパール SP, GS」
- ・MLCC (積層セラミックコンデンサ) 用セラミックバインダー 

自動車関連

遮音・遮熱中間膜「S-LEC」



自動車・建築用のガラスに用いる機能性フィルム。遮音・遮熱機能を高め、ガラスの薄肉化による材料の軽量化、エアコンの効率向上を実現。

- ・自動車床材用発泡体「Alveosoft」
- ・自動車用放熱グリッド 
- ・車両用 超耐熱テープ 



航空機関連

航空機内装用熱成形加工シート「KYDEX 航空機グレード」



難燃性、耐衝撃性など、航空機業界の厳格な安全基準とデザイン性を満たしたリサイクル可能な成形部材。座席シート、トレイテーブルなどに使用され、軽量化によって燃料削減に貢献。

住宅分野

樹脂製畳「MIGUSA」



耐久性に優れたポリプロピレンと天然の無機材料で作られた畳。自然な風合いを持ちながら、天然のイ草を使った畳より長持ちし、資源の有効活用に貢献。

- ・スマートハイムシティ、スマートハイムタウン 
- ・遮熱網戸材料「遮熱クールネット」
- ・遮熱網戸キット「スマート窓クール」
- ・高断熱フロア・浴槽 
- ・塩ビサッシ用プロファイル 

インフラ分野

強化プラスチック複合管「RCP」



ガラス繊維と不飽和ポリエステル樹脂、珪砂からなる多層構造の強化プラスチック管。優れた水理性、耐久性、軽量性を発揮し、トータルコストの削減にも貢献。

- ・管路更生工法「SPR 工法」
- ・ガス用ポリエチレン管・継手 
- ・下水道用ポリエチレン管・継手 

鉄道関連

防音レールカバー

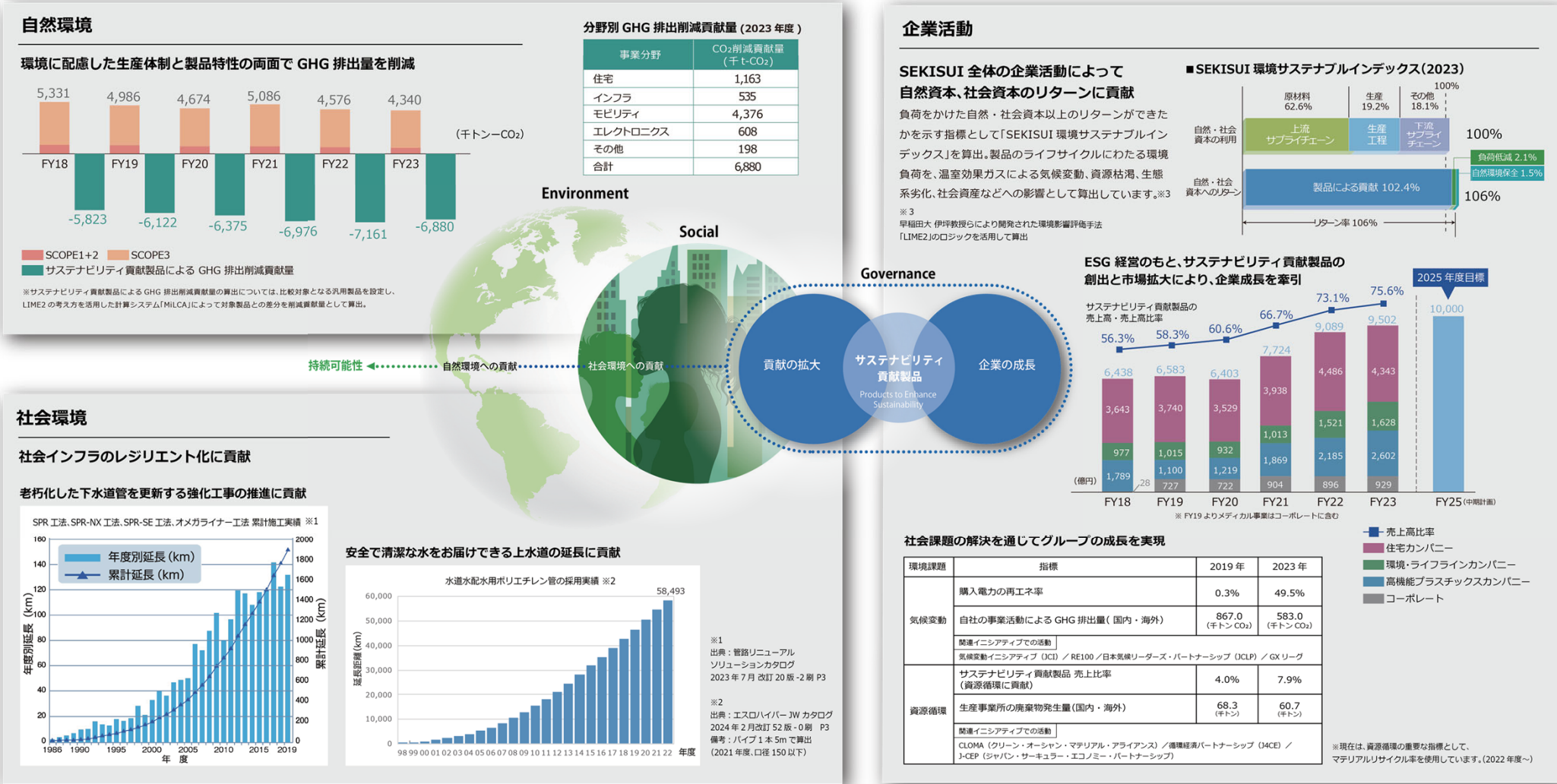


鉄道レールの凹凸面をなめらかにして、走行中の騒音を抑制する防音レールカバー。独自の制振技術と構造により重量を軽減し、省資源化に寄与。

- ・合成木材「エスロンネオランバー FFU」
- ・鉄道内装用熱成形加工シート「KYDEX 鉄道グレード」

サステナビリティ貢献製品への取り組みを通じて得られた成果

サステナビリティ貢献製品は、環境と社会に大きく貢献しながら、SEKISUI の目覚ましい成長を実現しています。



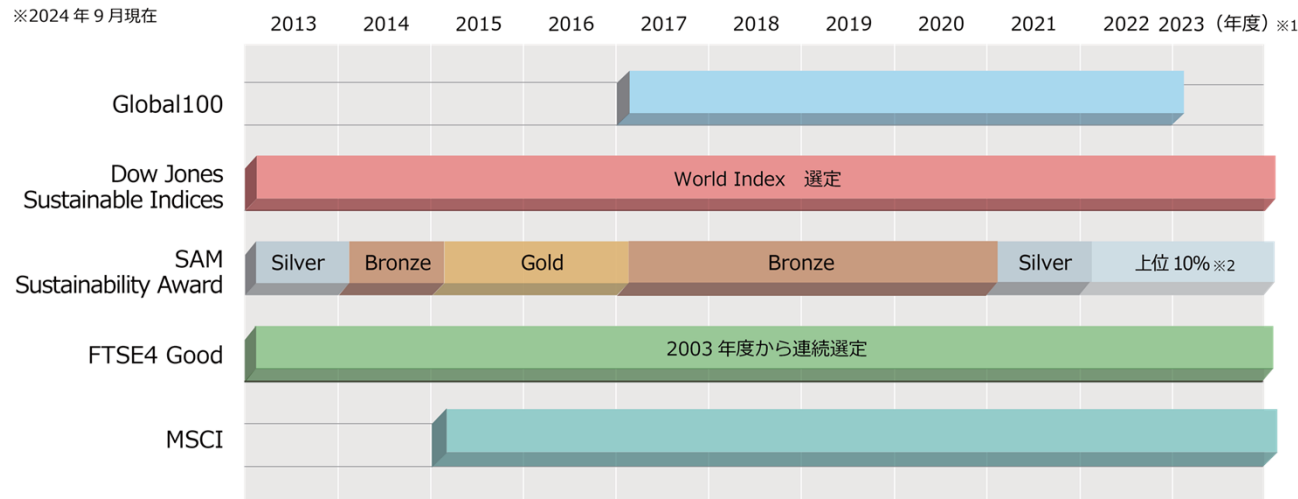
SEKISUI のサステナビリティへの取り組みに寄せられた社会からの評価



SEKISUIは、S&P Global社によるサステナビリティ格付けなど、著名な機関によって高い評価を受けています。

世界の第三者評価機関による SEKISUI のサステナビリティに対する評価

※2024年9月現在



Member of
**Dow Jones
Sustainability Indices**
Powered by the S&P Global CSA



FTSE4Good
<https://www.lseg.com/ja/ftse-russell/indices/ftse4good>

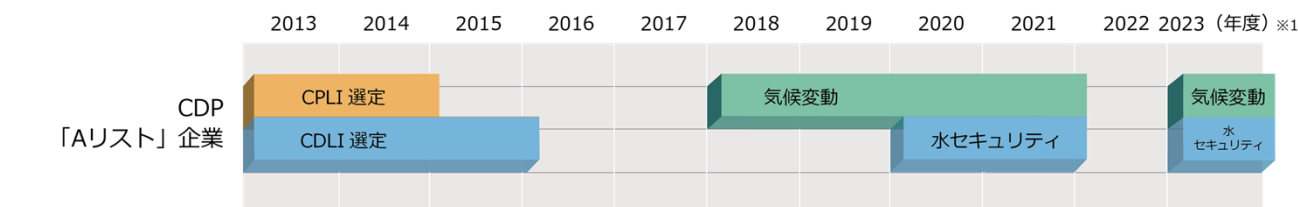
2024 MSCI ESG Leaders
Indexes Constituent

THE INCLUSION OF SEKISUI CHEMICAL CO., LTD. IN ANY MSCI INDEX, AND THE USE OF MSCI LOGOS, TRADEMARKS, SERVICE MARKS OR INDEX NAMES HEREIN, DO NOT CONSTITUTE A SPONSORSHIP, ENDORSEMENT OR PROMOTION OF SEKISUI CHEMICAL CO., LTD. BY MSCI OR ANY OF ITS AFFILIATES. THE MSCI INDEXES ARE THE EXCLUSIVE PROPERTY OF MSCI. MSCI AND THE MSCI INDEX NAMES AND LOGOS ARE TRADEMARKS OR SERVICE MARKS OF MSCI OR ITS AFFILIATES.

当社の第三者機関によるサステナビリティ評価の捉え方

- ①投資の促進など、自社の企業活動の面で好影響が得られる。
- ②このような活動が産業界への強いメッセージとなり、連鎖的に同様の取り組みが広がっていくことを期待できる。
- ③産業界全体のサステナビリティを実現することで、地球のサステナビリティを大きく高めることができる。

環境への取り組みに対する評価



CDLI : FTSE ジャパンインデックスに基づく国内大手企業 500 社中、環境に及ぼす影響の開示透明度が高いと認められる上位 24 社
CPLI : FTSE ジャパンインデックスに基づく国内大手企業 500 社中、温室効果ガスの削減等の活動が高いと認められる上位 12 社



SEKISUI は、温室効果ガス削減目標に関して 2018 年 3 月に「SBT1 イニシアチブ」での認証を申請。化学業界では世界で初めて承認され、その目標が、「パリ協定」の「1.5℃目標」を達成するために科学的に根拠のある意欲的な水準であることを示しました。



さらに、SEKISUI は、2023 年 7 月から TNFD フォーラムに参加。その提言を採用し、今後の開示を行う意思を表明するため、「TNFD Adopter」に登録を行いました。
(TNFD : 自然関連財務情報開示タスクフォース)

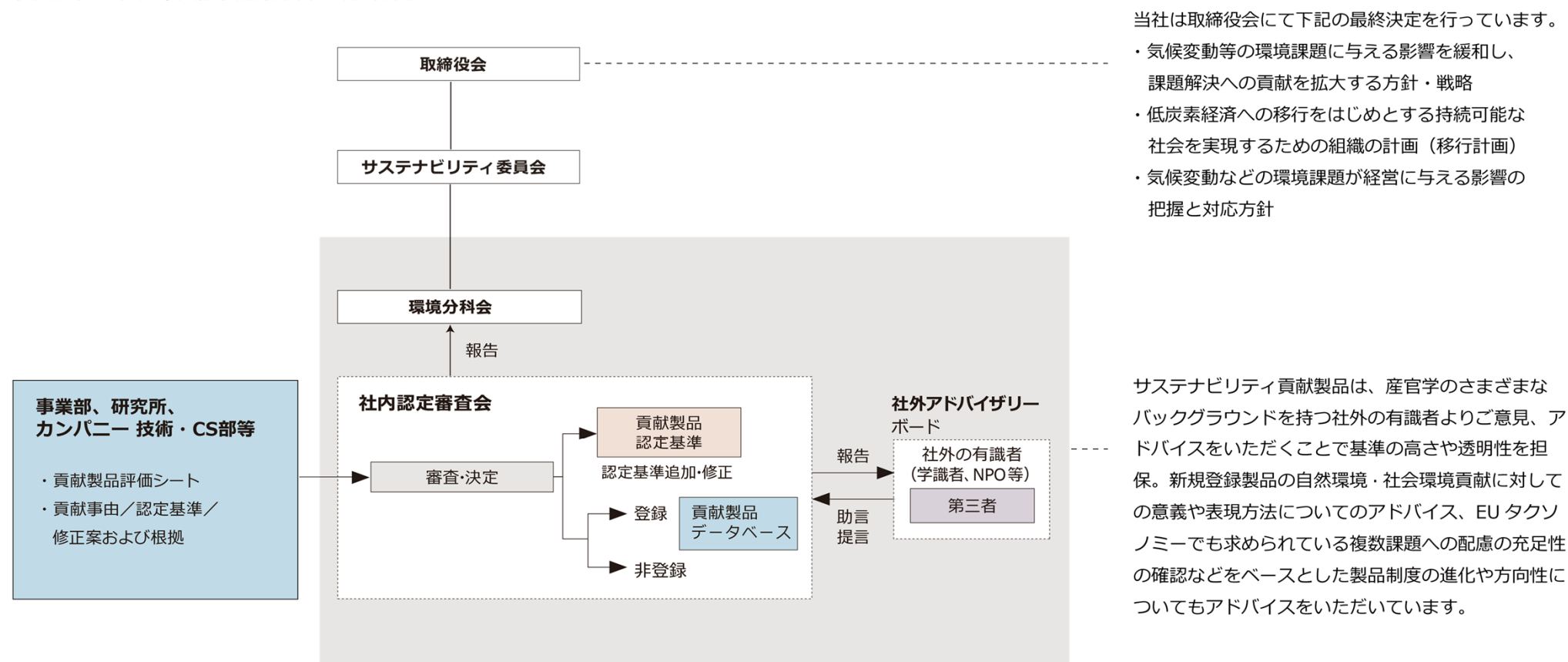
※1 : 選定された年度で表記しているため、ロゴの年号表記とずれている場合があります。

※2 : 22年度より上位1%、5%、10%というランク付けに変更

[参考情報] サステナビリティ貢献製品の社内での位置付けとガバナンス体制

サステナビリティ貢献製品は、環境分科会だけでなく、取締役会まで含めたグループ全体で取り組んでいる制度です。

サステナビリティ貢献製品制度の運用・認定方法



サステナビリティ貢献製品の今後の方向性

全社で策定した「戦略領域マップ」を長期ビジョン実現のための羅針盤とし、強化領域の拡大と革新領域への進出を実行していきます。

技術の際立ちを起点として4つのドメインで各事業のポートフォリオを変革します。

現有事業の延長線上で重点拡大する領域を「強化領域」として定めており、ここに集中的に資金を投下し、当社の持続的成長を牽引します。

今後はこの戦略マップで描いた領域のサステナビリティ貢献製品の創出・拡大を推進していきます。



今中期計画において特に注力する「主要7テーマ」